

飯野陣屋跡(富津市)

築城年代:慶安元年(1648年)、築城者:保科正貞

縄張図/飯野陣屋の遺構内には三条塚古墳があり、東側周濠の一部が二の丸と三の丸との間の周濠となっている以外は、飯野陣屋の三の丸の一部(物見台)となっている。また、西側の外側周濠は飯野陣屋三の丸の堀の一部として利用され、飯野陣屋の三の丸西側にある土塁の一部は、三条塚古墳の内周濠と外周濠との間の周堤を利用したものと考えられていると云う



ここは大手口で、現在飯野神社への参道の入口となっている/左手に説明坂が立っている



手前に「古墳三條塚」、「飯野陣屋跡」と記された二本の標柱が立っている



「飯野陣屋濠跡」と記された石碑と説明坂/背後は飯野神社と記された石碑



千葉県指定史跡

飯野陣屋濠跡

昭和四十二年三月七日指定

慶安元年（一六四八）に保科弾正忠正貞が築造した陣屋の濠跡である。正貞は信州高遠の城主保科家に生れ、早くから家康に仕え大坂夏の陣には大いに活躍をした。慶安元年六月大坂城番となり、前封と合せ一万七千石を領し侯籍に列して飯野を居所とした。

元來陣屋とは軍營のことであるが、江戸時代には城を持つことを許されなかった小藩主の居所を称した。この飯野陣屋は面積約一二万平方メートル余で、周囲に土塁や濠をめぐらした広大なものであったと伝えられる。その堂々たる威容は城郭と比しても遜色なく、後世、日本三陣屋の一と称せられたという。

濠跡は幅約五メートル、底部がV字形の葉研堀で、濠に沿って高さ約二メートルの土塁の一部も形を止めている。延べ面積は六六二〇平方メートルある。

昭和六十年 二月 一日

千葉県教育委員会
富津市教育委員会

参道を進んだところ/ここは本丸のエリア/この手前辺りは柵形となっていたようだ/前方に飯野神社の鳥居が見える



一旦、濠に沿って北方向に進んでみる/ここは陣屋の北東部で、戦後の一時期(1947~1967年)にあった飯野中学校跡/背後は二の丸のエリア



濠とその左手の土塁がこのように折れを持って陣屋跡(左手)を取り巻いている/説明板によると、この右手辺りは柵形となっていたようだ



北東角から南方向に陣屋跡のエリアを見たところ/左手に土塁がその左手の濠に沿って続いている/手前の平場は三の丸



さて、元の方(南方向)へと戻る/濠に沿って右手の土塁が続いている様子が見て取れる/その右手が陣屋跡



これは南東の角から西方向を見たところ



ここを西方向に進もう/右手が陣屋跡



少し行った所の右手のエリアは本丸/南側から北方向に見たところ/ここも陣屋内への虎口の一つだったのであろうか



更に西方向に進むと大きな説明坂があった/背後は本丸



県指定史跡 飯野陣屋濠跡

飯野陣屋は飯野藩初代の藩主保科正貞（保科正直の子）が慶安元年（一六四八）に築造したと言われ、廃藩置県に至るまで、二二三年飯野藩主の居所であった。

保科正貞は信州高遠の城主保科正直の子で、母は徳川家康の同母妹であり、会津藩は本家に当っている。

飯野藩は二万石で城を持つことを許されなかったが、陣屋は面積約四万二千坪（十二万三千平方メートル）でその規模は城郭におとらぬものがあつた。

陣屋内は区分して本丸・二の丸・三の丸と呼ばれていた。

飯野藩は大坂城番や江戸城の門番を命じられることが多く、平素陣屋には代官二名がいて年貢の徴収などの事務を処理していた。

陣屋は、造営以来現在まで三百六十余年を経過したが日本三陣屋（長州徳山・越前敦賀・上総飯野）の一つと呼ばれた昔のおもかげを、その周濠及び土塁にとどめている。他の二つの陣屋はすでに現存していない今では、残された貴重な史跡であるといえよう。

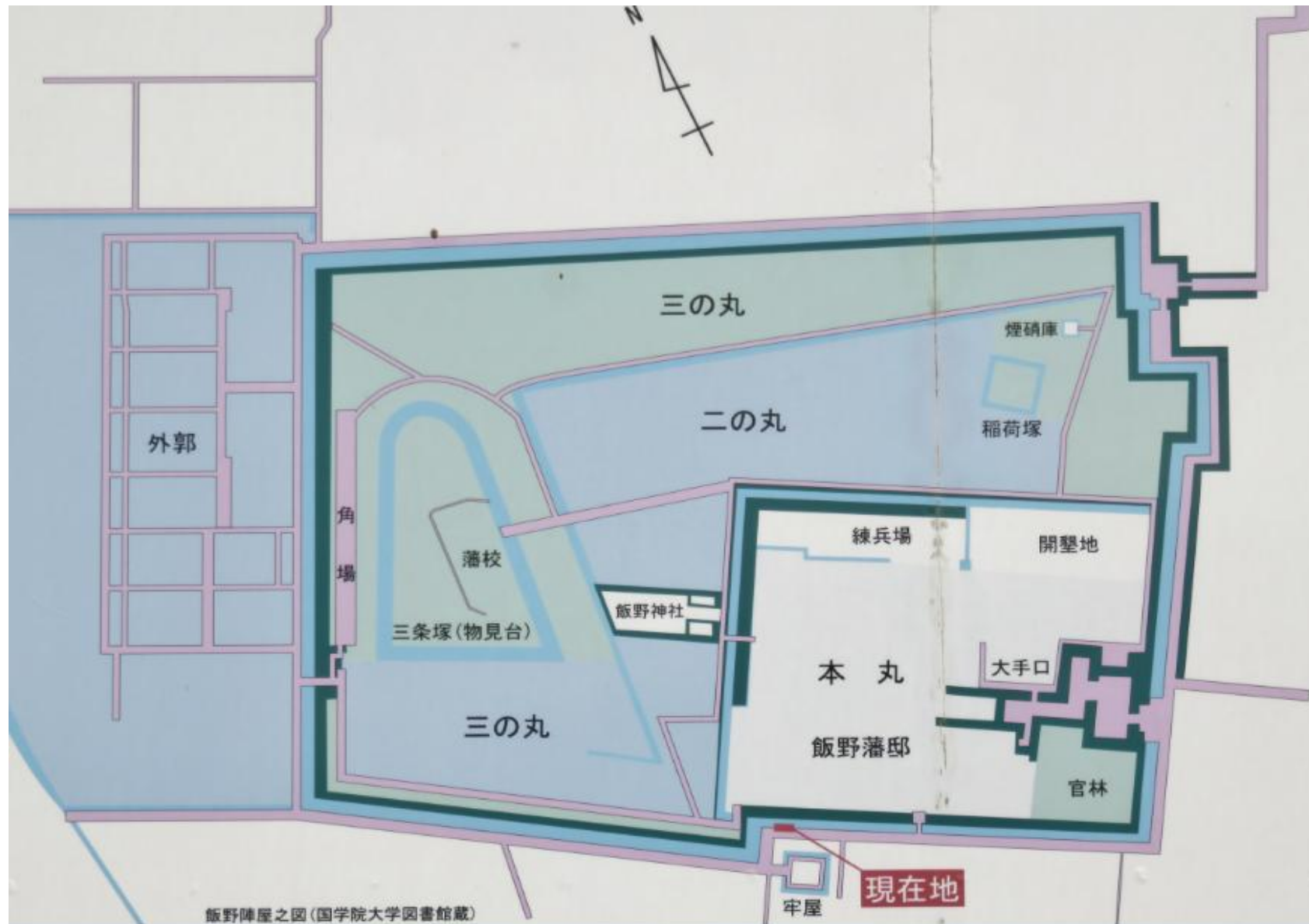
周濠延べ、六、六二〇平方メートルは昭和四二年（一九六七）に県指定史跡となつている。当地区は市内において有数な文化財をかかえている地区としてその重要性を思い、区民各位をはじめ多くの皆様の一層のご協力をお願いして、この説明板を設けます。

平成二十四年七月吉日



山王区
飯野地域活性化推進協議会

資料提供
・橋本一男氏
・八田英夫氏
監修・富津市教育委員会



飯野陣屋之図(国学院大学図書館蔵)

現在地

この部分の濠は折れを持っているが、陣屋の南側にある亀塚古墳(方墳)の外側周溝と重ねて造られているからだそうだ



更に西方向に濠が続く



ここは南西の角/今の右手の濠は北方向に曲がっている



南側から北方向に見たところ/この濠が三条塚古墳の西側の外側周濠/左手のエリアは外郭



少し北方向に進むと陣屋内への虎口がある/これが搦手のようだ



ここに搦手門があったようだ/この先は三の丸のエリア



さて、更に北方向に進むと北西角の手前に後世に造られた橋がある/ここから三の丸にある飯野神社へと行ってみよう



東方向に進んで行くと、このエリアが三の丸で右手に三条塚古墳を覆う木々が見える



更に東方向に進んだこのエリアが二の丸



少し進み、ここを右手に入っていく



前方が最初に見た飯野神社鳥居の手前/右手が飯野神社がある三の丸のエリア/左手は本丸のエリア



さて、正面が飯野神社



飯野神社社殿



二の丸エリアに鎮座する/この背後に三条塚古墳がある



説明板が立っている



飯野ふる里散歩道3

飯野陣屋について

飯野陣屋は初代藩主保科正貞が、慶安元年（一六四八）に造営したもので、明治四年（一八七一）の廃藩置県に至るまで十代二百二十三年にわたって飯野藩主および家臣たちの居所であった。

正貞は信濃国高遠の城主保科正直の三男で、母の多劫は徳川家康の異父同母妹（於大の方の娘）であった。正貞は早くから家康に仕え、大坂夏の陣では徳川方に属して軍功を挙げている。寛永六年（一六二九）に上総国周准郡と下総国香取郡に三千石の領地を与えられ、その後、摂津国豊島郡（現在の大阪府豊中市付近）にも領地を与えられて一万七千石の大名になった。領地の多くが摂津にあったため、摂津には浜村陣屋が置かれた。なお、徳川秀忠の三男正之が、正貞の兄である保科正光の養子となって、保科本家の高遠藩を継ぎ、やがて転封によって会津藩主となった。

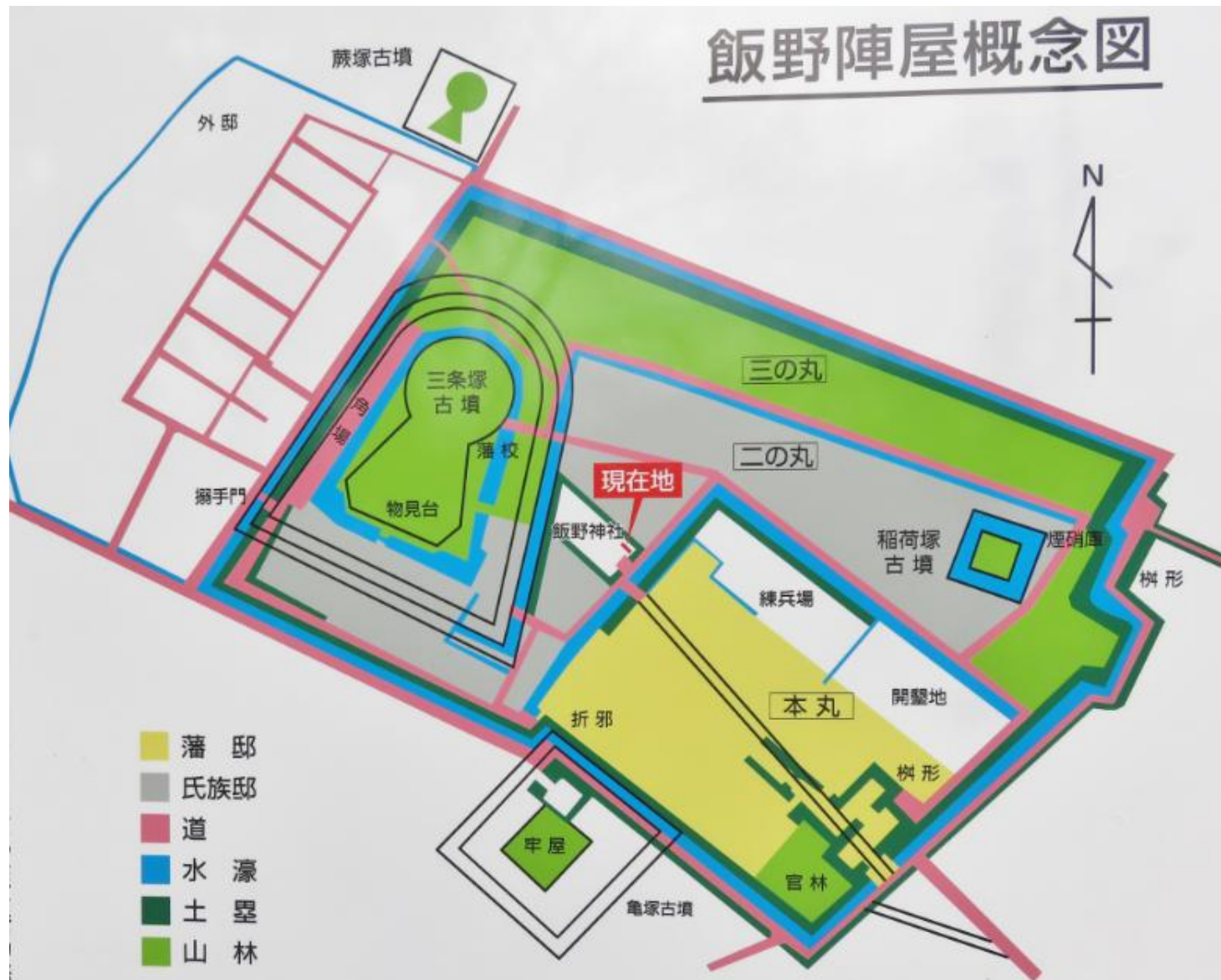
飯野藩は二代藩主正景の時に知行地が増加されて二万石となる。歴代の藩主は、大坂定番、大坂加番、江戸城門番、日光祭礼奉行などを勤め、江戸屋敷に常住することが多かった。

九代藩主正不の娘である照姫は、天保十三年（一八四二）に、会津藩主松平容敬の養女となり、再び会津藩と飯野藩の縁が結ばれた。照姫は中津藩の奥平昌服に嫁いだが、離縁となり会津藩に帰った。慶応四年（一八六八）の新政府軍との会津籠城戦が開始されると、照姫は場内にあって婦女子の指揮を取り、傷兵の手当や敵弾の防火などに当たったという。

陣屋の面積は十二万三千平方メートル（四万一千坪）で、本丸、二の丸、三の丸を備え、その周濠は昭和四十二年（一九六七）に千葉県指定史跡となっている。周濠の内側には土塁が巡らされている。なお陣屋の区画が、三条塚古墳や亀塚古墳など古墳の周溝を再利用して構築されていることも、当陣屋の特徴である。三条塚古墳の東側には幕末から明治初期に飯野藩校があった。

平成二十八年（二〇一六）六月吉日

飯野陣屋概念図



参考ホームページ

<http://vogokun.my.coocan.jp/huttusi2.htm>

<http://biisuke0822.blog.fc2.com/blog-entry-1746.html>

http://castle.slowstandard.com/08kanto/12chiba/post_365.html

<http://www.geocities.jp/sisin9monryu/chiba.futtu.html>

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2014/04/01/130505>

<http://hazukimap.sakura.ne.jp/guide/12c/futtsu/12226S015.htm>

<http://kazusa.ipn.org/b/archives/313>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/kazusa/iino-iinva/>

http://blog.livedoor.jp/sujin_10/archives/24946881.html

